



志津川湾において 確認された海藻・海草

財団法人環日本海環境協力センターと東京大学大気海洋研究所は、震災後の志津川湾における海藻・海草の繁茂状況を確認するために現地調査を行っています。これまで、予備調査（2011年9月15日）、第1回調査（2011年10月18～20日）、第2回調査（2012年5月29～31日）、第3回調査（2012年10月24～26日）を宮城県漁協志津川支所・歌津支所の協力を得て実施してきました。湾奥部ではアマモ場の消失が見られましたが、その他の海域では海藻・海草が繁茂していることを確認しています。今後は、海藻・海草の再生過程も調査していくことにしています。



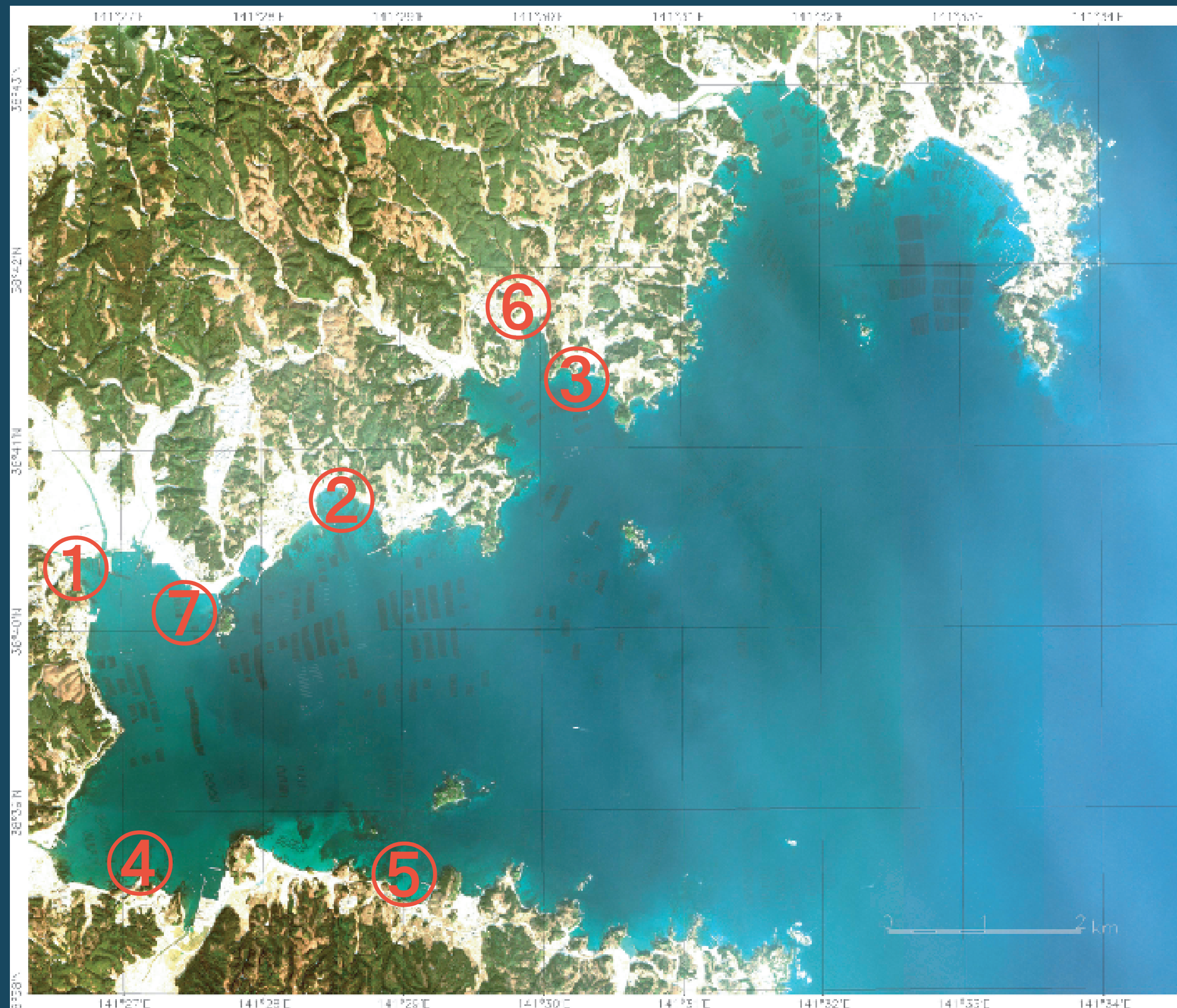
①2012年5月29日撮影

志津川湾奥の八幡川河口から水尻川河口にかけての海域では、震災前にアマモ場が広がっていました。しかし、震災後2012年5月にはホンダワラ類（タマハキモク）、マコンブおよびワカメが繁茂しており、アマモ場からガラモ場へ変化したと考えられます。



②2012年10月24日撮影

伏房崎から平磯漁港にかけて、アマモを確認することができました。



③2012年10月25日撮影

葦の浜漁港外では、タチアマモを確認することができました。漁港内では2011年10月にタチアマモ、2012年5月にはトゲモクが見られました。



④2011年10月19日撮影

水戸辺地先では、トゲモクを主体とするガラモ場が広がっていました。季節を問わず繁茂しており、水戸辺地先では津波による藻場への影響は小さかったと考えられます。



⑤2012年10月26日撮影

自然環境活用センター前では、震災前にアマモ、タチアマモ、スガモおよびスゲアマモの生育が確認されていました。2012年10月には、アマモの生育を確認することができました。



⑥2012年5月30日撮影

細浦地先では、陸域から供給された石を基質としてタマハキモクが繁茂していました。



⑦2012年5月29日撮影

2012年春季には志津川湾全域にマコンブやワカメが例年よりも多く繁茂する様子が確認されました。写真は荒島周辺で見られたマコンブです。